# 鯉淵学園が新聞に紹介されました

令和５年５月 22 日付地元新聞に、鯉淵学園の農場で行われている「農福連携」の活動が紹介されました。

文責：石塚

詳細は[こちら](#)をクリック！

2023年(令和5年)5月22日　月曜日　茨城新

水戸・鯉淵学園

## 新たに「農福連携」拠点

### IT企業運営、レタス栽培

心身に障害があり、働く場が限られる人たちと農業を結び付ける「農福連携」の拠点が、また一つ県内に誕生した。水戸市鯉淵町の鯉淵学園農業栄養専門学校（長谷川章平学園長）内にある「ふくろうファーム鯉淵学園」（七井拓也農場長）だ。水耕栽培で無農薬のリーフレタスを栽培する。七井農場長（36）は「手順が決まっているため取り組みやすい仕事。雇用を拡大したい」と意気込む。

丁寧に収穫作業をする女性と、栽培具合をチェックする七井拓也農場長（左）＝水戸市鯉淵町の鯉淵学園農業栄養専門学校

ふくろうファームは、システム開発を手がけるIT企業「フォーカスシステムズ」（東京都）が運営する。縁あって、長年未利用だった同学園のハウス1棟を借りて修繕し、生産を開始した。2019年に設立された障害者就労施設の自社農場「ふくろうファーム千葉」（千葉県）に続き、2カ所目となる。

ふくろうファーム鯉淵学園では、現在ハンディキャップを持つ2人が働く。約2週間の実習を経て採用となった。担当する仕事はリーフレタスの種まきから栽培、収穫、梱包までを行う。七井農場長は「障害がある人にとって、作業の変化は負担がかかる」と、仕事の手順などに細やかな心配りをする。

2人は、細かなヒダがある水耕用レタス「マルチリーフクイーン」と大ぶりの葉が特徴的な「マルチリーフリボン」の2品種を栽培している。種をまいた後、約40～45日で収穫できるため、年間を通じて出荷していく予定だ。ハウス内で作業をしていた女性（51）は「実習をした時、自分にもできそうだと思った。育てた商品を食べてもらえる楽しみがある」とうれしそうに語った。

ふくろうファーム鯉淵学園は、将来的に販路拡大のため栽培面積や品目を増やしたい考え。しかし、七井農場長は「採用したいが人が見つからない。障害のある人はどう求職しているかがつかめない」と、課題を挙げた。鯉淵学園農業栄養専門学校の長谷川学園長（52）は「農福連携」は農業の在り方の一つ。特性に応じた作業を行うことで、非常にしっかりした商品ができる。（学園が）理解を深めるスタート地点になれば」と期待した。

リーフレタスは同学園の農産物直売所「農の詩」で購入できる。問い合わせは☎0296(259)9004へ。（鈴木聡美）